



## ハイライト

- 12月6日、沖縄県立博物館・美術館において、「移住者と共につくる地方創生シンポジウム 2016」を開催しました。
- 第3回地域の世話役養成塾を開催しました。
- 名護市の移住・定住促進へ向けた取組みについて紹介します。

## 目次

「移住者と共につくる地方創生シンポジウム 2016」開催！	1
地域の世話役養成塾(第3回)開催しました！	2
移住・定住促進への取組み @名護市	2
移住者の声	2
ひと紹介コーナー	2

## 「移住者と共につくる地方創生シンポジウム 2016」開催！



沖縄県立博物館・美術館 講堂



12月6日(火)に「移住者と共につくる地方創生シンポジウム 2016」を沖縄県立博物館・美術館で開催し、133名の方にご参加いただきました。

基調講演では、日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏をお迎えし、「現実の構造把握から考える沖縄県における移住定住促進の意義とこれからの可能性」について、講演いただきました。「沖縄の総人口は増えているが、増えているのは高齢者(65歳以上)。

生産年齢人口(15~64歳)は減少に転じている。」と指摘。解決策として、地域で消費するものは地域産でまかなう「地消地産」により、地域が活性化され、雇用が創出されることにより、移住者の定着につながっていくとのお話をいただきました。

また、パネルディスカッションでは、実際に沖縄へ移住された方、受入れ市町村、受入れ地域の方にご登壇いただき、それぞれの立場から現状や取組みを紹介いただき、藻谷氏より全国事例の紹介も交えて、地域にあった移住のあり方について考えていきました。

### ○今後の予定○

#### 【世話役養成塾】

- 第4回2月3日(金)  
県庁4階第1会議室  
市町村職員、世話役合同研修会(南部、北部合同開催)

#### 【移住フェア(東京)】

- 1月14日(土)  
沖縄移住セミナー
- 1月15日(日)  
JOIN移住・交流フェア  
【沖縄県移住受入協議会】
- 3月22日(水)

#### 【おきなわ移住相談会】

- 2月11日(土)  
東京国際フォーラム4階  
【移住体験ツアー】
- 2月17日~19日 宮古島市
- 2月24日~26日 石垣市

## 地域の世話役養成塾(第3回)開催しました！

12月6日(南部地区)、7日(北部地区)、地域の世話役養成塾(第3回)を開催しました。講師には、富山県朝日町笹川集落の自治振興会長の小林様をお迎えし、笹川集落の取組みについて講義いただきました。

笹川集落では、移住を考える前に、自身の地域再生に必要なことを考えることが重要であるとの認識から、次世代の若者をチームリーダーに、暮らしの安全・安心、住まい、就労等8つのプロジェクトチームを作り、具体的な取組みを始めたこと。成果を求めるのではなく、皆で「楽しく」を重要視したことが、地域の方のやる気につながっているとのことでした。

今回は、いよいよ最終回です。世話役の皆様、行政職員で、それぞれの役割を認識し、改めて自身の地域での移住受入れについて考えていきましょう。また、次年度の参考にして頂くために、これまで参加していない市町村職員の皆様の参加も可能です。ぜひご参加ください。

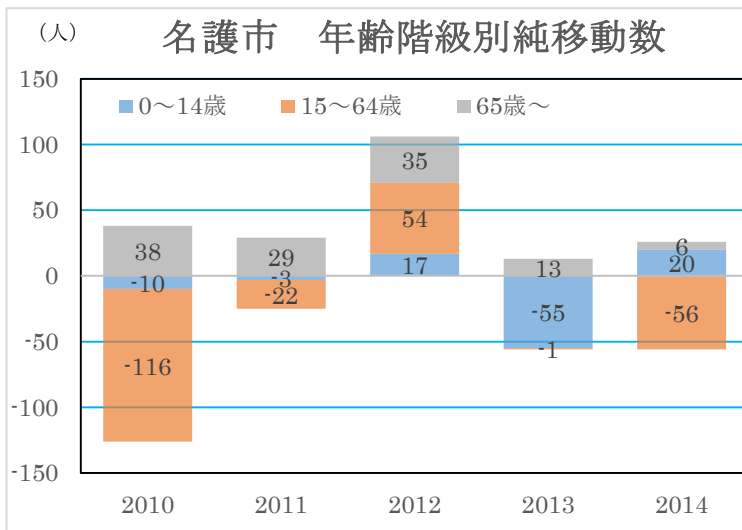


## 移住・定住促進への取組み@名護市

名護市の人口は、現在も増加傾向にあります。平成32年にピークを向かえ、以降は減少に転ずることが予想されています。さらに、近年の転出入の状況では、転出超過の状況となっており、転出入の均衡を図ることが重要になっています。

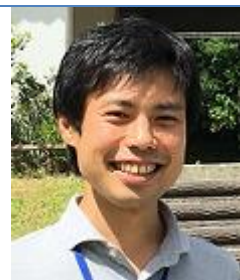
また、名護市では、人口が増加傾向にある地域と、すでに人口減少が進んでいる地域があり、移住・定住の促進には、各々の地域の意向を踏まえた取組が必要になっています。

そのような中、久志地域(名護市東海岸地域)では、人口減少が地域の課題として共通認識となりつつあり、移住モニターツアー、区長と集落支援員が連携した空き家調査等の取組を行ってきました。また、久志地域の自然、文化、暮らしに引かれて移住された方の中には、先輩移住者として移住希望者を支援したいという気持ちを持った方も多く、沖縄県が開催している世話役養成塾には、県内市町村最多の5名(地域:3名、行政:2名)が参加しています。



## 移住者の声 わんさか大浦パーク 管理責任者 深田 友樹英

社会の変化と共に様々なスケールでの仕組みの変化が求められる中、明るい未来をつくっていく可能性は自然や伝統、豊かなコミュニティが残る農村にあると確信し、学生時代から通っていた祖父の出身地である名護市東海岸にご縁がつながり6年前に移住(孫ターン)しました。地域に住んでいる人、住んでいなくても愛着のある人、つながった人たちが関わり合いの中で個性を活かした役割が生まれ、必要な取組みが積み上がっていく土壌ができつつあると感じています。この夏から現場の責任者をさせていただいている交流拠点の直売所「わんさか大浦パーク」のつなぎ役としての力をアップし、面白い人やコトが引き寄せられ、つながり、プラスの循環が生まれる状況をつくっていきたくと思っています。



## “ひと紹介コーナー” 名護市総務部久志支所 集落支援員 松尾 太士

エコツーリズムコーディネーターの勉強をした後、夫婦で約2年半の世界一周の旅へ。旅先で出会った様々な感動やおもてなしの心に触れ、帰国後は自分たちが、訪れる旅人をもてなし、楽しんでもらいたいという思いから名護市へ移住し、集落支援員として、いまある資源を活かした地域の活性化・魅力化に取り組み、4年目を迎えました。やんばるの豊かな海と山は言うまでもなくこの地域のとびきりの宝ではありますが、私はこの地域に暮らす「人」こそが最大の魅力であり、資源だと思っています。住む人の笑顔が輝き、幸せと思える暮らしがある、そんなムラは誰にとっても魅力的ですね？人を呼び込むには、まずは自分たちが楽しむこと。そんなことをイメージしながら地域の方々と日々楽しいことをたくらんでいます。

